



2025年
2/4

火 山口県立大学 3号館

参加
無料



【開催方法】 対面

【参加申込】 QRコードから事前にお申込みください
<https://forms.gle/Du42CcLUeZBy1TdCA>
 外部からのご参加の場合は2月2日17:00まで

タイムスケジュール

午前の部: C546(ALS)

午後の部 1: C301、午後の部 2: C546(ALS)

第 1 部	「日本語教育実践演習」最終報告会 ポスター発表 (デジタル教材デモ)	第 2 部	言語教育と言語研究に関する公開講座
10:30	開会の辞 西田 光一 (山口県立大学国際文化学部長)	12:40	開会の辞 西田 光一 (山口県立大学国際文化学部長)
10:35	「てご project」2024の取組概要説明 林 炫情 (山口県立大学国際文化学部教授)	12:45 - 13:35	「日本語教育の参照枠報告」の批判的談話研究 —誰のための、何のための参照枠— 名嶋 義直 (琉球大学)
10:45	学生のポスター発表 学生による発表とデモンストレーション	13:40 - 14:30	敬語とやりもらいから見る“母語話者”と“学習者” 滝浦 真人 (放送大学)
11:20	ポスター発表 総評 ・辻本 紳一朗 (山口市立平川小学校) ・立部 文崇 (周南公立大学) ・名嶋 義直 (琉球大学) ・滝浦 真人 (放送大学)	休 憩	
11:35	閉会の辞 西田 光一 (山口県立大学国際文化学部長)	15:00 - 16:30	パネルディスカッション 「日本語と日本社会の一致と不仲」 西田 光一 (司会)、名嶋 義直、滝浦 真人
		16:30	閉会の辞 西田 光一 (山口県立大学国際文化学部長)

多文化共生社会における
言語教育と
言語研究を考える



午後・第1部

言語と言語教育

「日本語教育の参照枠報告」の批判的談話研究

—誰のための、何のための参照枠か—

名嶋義直（琉球大学）

講師は「日本語教育の参照枠」の中の「言語教育観の3つの柱」と「はじめに」・「1『日本語教育の参照枠』の検討経緯」に焦点を当てて批判的談話研究を行い、昨年8月と12月に国際シンポジウムで口頭発表を行った。本講演ではそれらの発表内容を統合し、「日本語教育の参照枠」が誰のためのものなのか、何のためのものなのか、について考察する。そして「日本語教育の参照枠」が、理想的には「シティズンシップ教育的や複言語主義教育的な実践」を目指しつつ、実質的には「権力による管理や支配のための装置としての利用」を想定しているという二面性を持つことを指摘する。

敬語とやりもらいから見る“母語話者”と“学習者”

滝浦真人（放送大学）

敬語とやりもらい（授受表現）は、どちらも人間関係の中に事柄を置き入れて表したいときの欠かせない道具と言えるが、日本語がこの両方を手放せない理由は何だろうか？ そして、この2つは、学習者の悩みの種であり、同時に、教える母語話者にも悩みの種である。このトークでは、敬語とやりもらいの社会・歴史語用論的背景やそれぞれの働き方を確認しつつ、学習者の「中間言語」における収まり方や、初級学習者への教え方についての研究などを参照しながら、母語話者と学習者の間にある“溝”について考えたい。

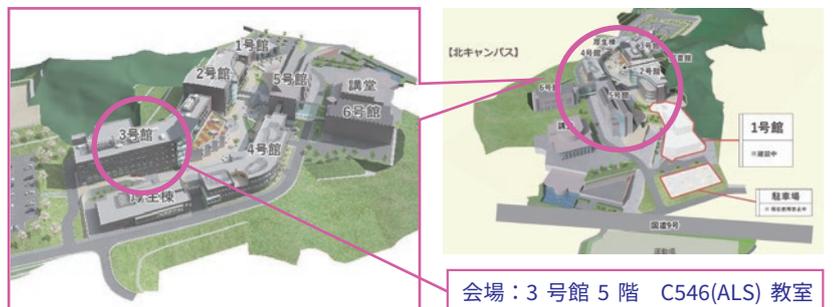
午後・第2部

「日本語と日本社会の一致と不仲」

日本語は日本社会を反映している面もある一方で、日本語の特徴のせいで社会が面倒になることもあるのではないのでしょうか。身近なことばに見え隠れする偏見がテーマです。

講師の先生方を交えたディスカッションを行います。
ぜひご参加ください。

アクセスマップ



〒753-0021 山口市桜島 6 丁目 2-1

【お問合せ】山口県立大学 国際文化学部（担当：林）

TEL：083-929-6237

Mail：hjljm@yp4.yamaguchi-pu.ac.jp

本取組は、令和6年度山口県立大学の研究創作活動（大地共創研究型）の助成を受けたものです。